

WebSAM

JobCenter

R12.6
〈リリースメモ〉

- Windows 2000, Windows XP, Windows 2003 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- UNIX は、X/Open カンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。
- SAP, R/3, BW は、SAP AG の商標もしくは登録商標です。
- HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。
- AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。
- NQS は、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。
- その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、®、TM、©の記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェア）は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取り下さい。

許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談下さい。

はじめに

本書は、『JobCenter R12.6』の新機能の概要等について説明させていただきます。

• 凡例

本書内での凡例を紹介します。



: 気をつけて読んでいただきたい内容です。

注 : 本文中につけた注の説明

備考 : 本文中の補足説明

 : UNIX 版のインストール画面の説明では、 部分（下線部分）はキーボードからの入力を示します。

• 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、**JobCenter 製品サイトのダウンロードのページ**を参照してください。

URL : <http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html>

資料名	概要
JobCenter インストールガイド	JobCenter を新規にインストール、またはバージョンアップする場合の方法について説明しています。
JobCenter クイックスタート編	初めて JobCenter をお使いになる方を対象に、JobCenter の基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenter の基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenter を利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS 機能利用の手引き	JobCenter の基盤である NQS の機能を JobCenter から利用する方法について説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムで JobCenter を操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter SAP 機能利用の手引き	JobCenter を SAP と連携させるための方法について説明しています。
JobCenter インポート・エクスポート機能利用の手引き	ユーザ環境のバックアップや環境の移行の際に必要な、JobCenter 上のジョブネットワーク定義、スケジュール定義およびカレンダー定義のインポート・エクスポート機能について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Win からの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter テンプレートガイド	JobCenter に標準添付されている各種テンプレートの利用方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUI と同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenter で用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter R12.6 リリースメモ	本書

• 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2007/10/04	新規作成	—	第1版
2	2007/11/09	追加	—	「2.7 下位バージョンとの互換性について」の節を追加
2	2007/11/09	修正	—	「3.2 Windows版」 - 「3.2.1 対応OS、必要メモリ容量」についての修正
2	2007/11/09	追加	—	「5.1.4 インストールディレクトリのパーミッションとrootユーザのumaskについて」の節を追加
2	2007/11/09	追加	—	「4.3 操作/環境設定」にq系コマンド利用制限についての説明を追加
2	2007/11/09	追加	—	「5.2.2 制限事項」にジョブリクエスト実行時にOSシャットダウンでキューSTOPの注意事項を追加

目 次

1. はじめに	7
1.1 本製品の構成について	8
1.2 備考	9
2. このバージョンの概要	10
2.1 新規機能・強化された機能	11
2.1.1 JobCenterR12.6	11
2.2 変更事項	17
2.2.1 JobCenterR12.6	17
2.3 サポートが中止された機能	18
2.3.1 JobCenterR12.6	18
2.4 サポートされない機能	19
2.4.1 netatlas	19
2.4.2 共有ジョブネットワーク	19
2.4.3 パーミッション設定	19
2.4.4 ジョブネットワークの実行規制	20
2.5 次回バージョンではサポートされない機能	21
2.5.1 デバイスリクエスト	21
2.5.2 CSV編集ツール	21
2.6 次回バージョン以降で変更される機能	22
2.6.1 CSV機能について	22
2.6.2 インストール時に作成されるデフォルトキューについて	22
2.7 下位バージョンとの互換性について	23
3. 動作環境	24
3.1 UNIX版	25
3.1.1 対応OS、必要メモリ容量	25
3.1.2 パッケージインストールディレクトリ	26
3.1.3 インストール以外に必要なディスク容量	27

3.1.4 依存パッケージ	28
3.2 Windows版	30
3.2.1 対応OS、必要メモリ容量	30
3.2.2 パッケージインストールディレクトリ	31
3.2.3 インストール以外に必要なディスク容量	31
3.2.4 依存パッケージ	32
3.3 使用するネットワークポート	33
3.4 クラスタ動作環境	35
4. UNIX版 とWindows版の機能差について	36
4.1 ジョブネットワーク	37
4.2 リクエスト	38
4.3 操作／環境設定	40
5. 注意事項・制限事項	41
5.1 UNIX版での注意事項・制限事項	42
5.1.1 SNMP-Trap 対応について	42
5.1.2 使用不可ユーザ名について	42
5.1.3 クラスタ環境について	42
5.1.4 インストールディレクトリのパーミッションとrootユーザのumaskについて	42
5.2 Windows版での注意事項・制限事項	43
5.2.1 注意事項	43
5.2.2 制限事項	45

1. はじめに

JobCenter は、商用 UNIX および Windows, Linux システム上でバッチ処理を行うためのシステムです。バッチ処理とは、リクエストを受け付けてキューイングし、順番に処理する機能です。JobCenter の利用により、システム資源の利用のバランスをコントロールし、システムの効率を上げることができます。

1.1 本製品の構成について

1.2 備考

1.1 本製品の構成について

JobCenter のセットアップは専用媒体 JobCenter Media (CD-ROM)から行います。

本製品は次のプロダクトにより構成されています。

- マネージャ機能

JobCenter MG

ジョブネットワーク（ジョブ）の実行環境構築、状態監視を行なう機能です。監視は Windows GUI（JobCenter CL/Win）を使用して行います。

- サーバ機能

JobCenter SV T0/T1/T2/T3

N Q S をベースとしたジョブ実行機能を提供します。

- Windows GUI

JobCenter CL/Win

マネージャ/サーバに接続する Windows 上の GUI です。

- クラスタ機能

JobCenter CJC Option

マネージャ/サーバの二重化を行います。

※CJC Option はライセンス製品です。パッケージのインストールは必要ありません。

- R/3 連携機能

JobCenter for R/3 Option

SAP R/3 システムにジョブの投入を行います。

※R/3 Option はライセンス製品です。パッケージのインストールは必要ありません。

- SAP BW 連携機能

JobCenter for BW Option

SAP BW システム上に定義されているインフォパッケージの起動を行います。

※BW Option はライセンス製品です。パッケージのインストールは必要ありません。

本製品のマニュアル類は PDF 形式で JobCenter Media に収録されています。

1.2 備考

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

2. このバージョンの概要

このバージョンの新機能、変更事項等について説明します。

-
- 2.1 新規機能・強化された機能
 - 2.2 変更事項
 - 2.3 サポートが中止された機能
 - 2.4 サポートされない機能
 - 2.5 次回バージョンではサポートされない機能
 - 2.6 次回バージョン以降で変更される機能
 - 2.7 下位バージョンとの互換性について

2.1 新規機能・強化された機能

2.1.1 JobCenterR12.6

(1) 操作・実行ログ出力機能

CL/Win から実行された操作、および、ジョブネットワークの実行記録を、ログとして出力することが可能になりました。

詳細は、「JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き」、および、「JobCenter 環境構築ガイド-6.5 操作・実行ログ」をご覧ください。

(2) ジョブ待合部品の機能強化

ジョブ待合部品の機能が強化され、同部品が属するジョブネットワーク以外のジョブネットワーク中のジョブ、及び他ユーザのジョブネットワーク中のジョブの待ち合わせが可能になりました。

詳細は、「JobCenter 基本操作ガイド - 4.4.2 ジョブ待ち合わせの設定をする」をご覧ください。

(3) サブジョブネットワーク待合部品の機能強化

サブジョブネットワーク待合部品の機能が強化され、同部品が属するジョブネットワーク、及びそのサブジョブネットワーク以外のジョブネットワークの待ち合わせが可能になりました。

また、他ユーザのジョブネットワークの待ち合わせも可能になりました。

詳細は、「JobCenter 基本操作ガイド - 4.4.3 サブジョブネットワーク待ち合わせの設定をする」をご覧ください。

(4) 最新トラッカ表示モード

トラッカー一覧画面において、同一ジョブネットワークのトラッカが複数存在する場合、それらの同名トラッカのうち、最新のトラッカのみを表示する機能が追加されました。

これにより、ジョブネットワークごとに、最新の実行結果のみを表示するなどの、効率的な監視を実現しております。

詳細は、「JobCenter 基本操作ガイド - 5.3 最新のトラッカだけを表示する」をご覧ください。

(5) サブジョブネットワーク部品の機能強化

ジョブネットワークにサブジョブネットワークを追加する際に、既存のジョブネットワークを指定するだけだった従来に加えて、その場で新規にジョブネットワークを作成してサブジョブネットワークとして配置することが可能になりました。

詳細は、「JobCenter 基本操作ガイド - 4.2.7 サブジョブネットワークを配置する」をご覧ください。

(6) 単位ジョブの事前スキップ機能の追加

単位ジョブ部品のパラメータが拡張され、ジョブネットワーク投入時に単位ジョブを、従来の「保留」状態に加えて、「スキップ」状態で投入することが可能になりました。

詳細は、「JobCenter 基本操作ガイド - 4.2.2 単位ジョブの実行条件（パラメータ）を設定する - (5) [その他] タブ」をご覧ください。

(7) ジョブネットワークの事前保留、事前スキップ機能

ジョブネットワークのパラメータで事前保留、事前スキップの設定ができるようになりました。この設定が行われているジョブネットワークを投入すると、指定された状態になります。詳細は「JobCenter 基本操作ガイド - 3.4.4 ジョブネットワークのパラメータを設定する」をご覧ください。

(8) 即時投入時の事前保留、事前スキップ指定機能

ジョブネットワークの即時投入時に事前保留、事前スキップの指定ができるようになりました。詳細は「JobCenter 基本操作ガイド - 3.2.1 即時投入する」をご覧ください。

(9) トラッカ情報差分の自動取得機能

トラッカー一覧画面において、従来、一定時間ごとに自動で実行されているトラッカ更新を、任意の時点に手動で実行することが可能です。

これにより、前回取得したトラッカ情報との差分を、手動にて取得・更新することが可能になります。詳細は、「JobCenter 基本操作ガイド - 5.12 トラッカー一覧を差分更新する」をご覧ください。

(10) インポート・エクスポート機能のログ自動削除機能

インポート・エクスポート機能実行時に出力されたログに対して、保存期間を設定し、保存期間を過ぎたものに対しては、自動で削除することが可能になりました。

詳細は、「JobCenter インポート・エクスポート機能利用の手引き - 5.2 ログファイルの削除機能」をご覧ください。

(11) jc_getinfo, jc_check コマンドの高速実行オプション

環境設定チェックツール(jc_check)、情報採取ツール(jc_getinfo)に、検査内容を簡略化することで、高速に実行を可能とするオプションが追加されました。

詳細は、「JobCenter コマンドリファレンス - 7.1 jc_check JobCenter の設定環境を確認」、「JobCenter コマンドリファレンス - 8.1 jc_getinfo JobCenter の障害発生時、原因究明に必要な 1 次情報を漏れなく採取」をご覧ください。

(12) 部品検索画面の検索機能強化

部品検索画面にてグループ名、ジョブネットワーク名と部品名の指定でワイルドカード「*」を指定した前方一致検索機能が追加されました。

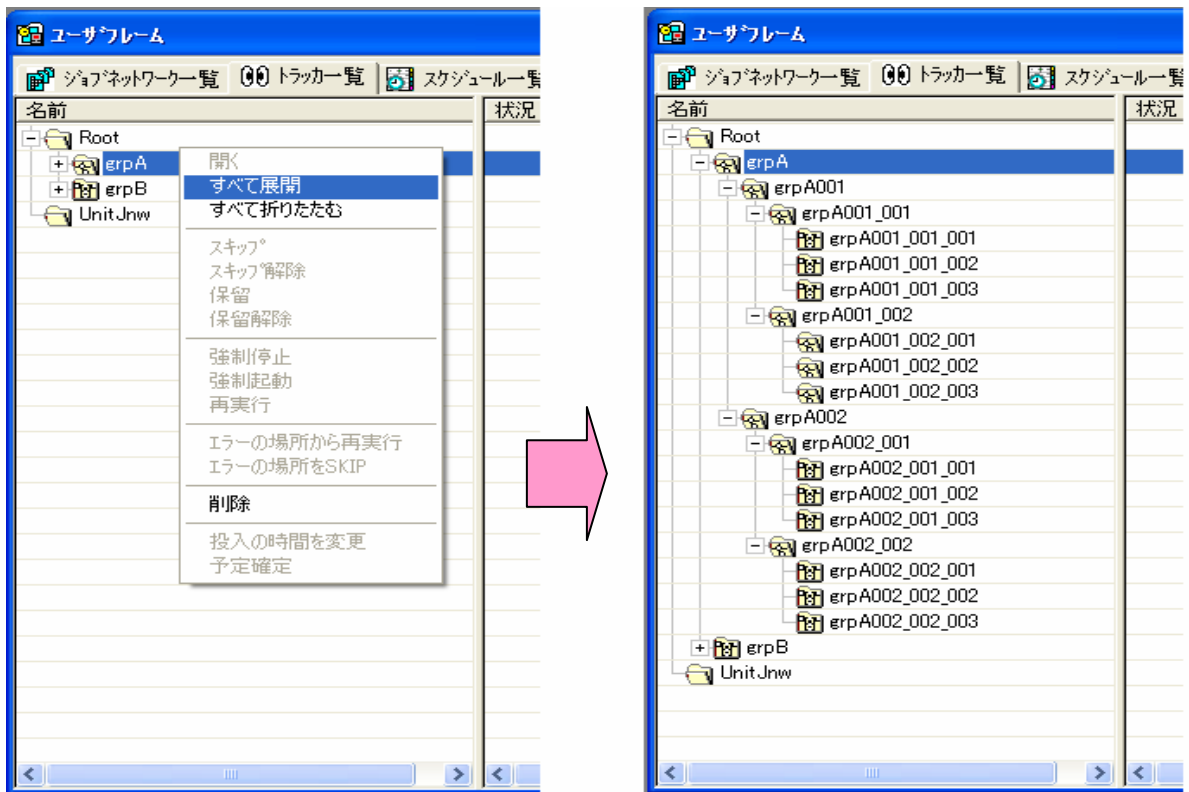
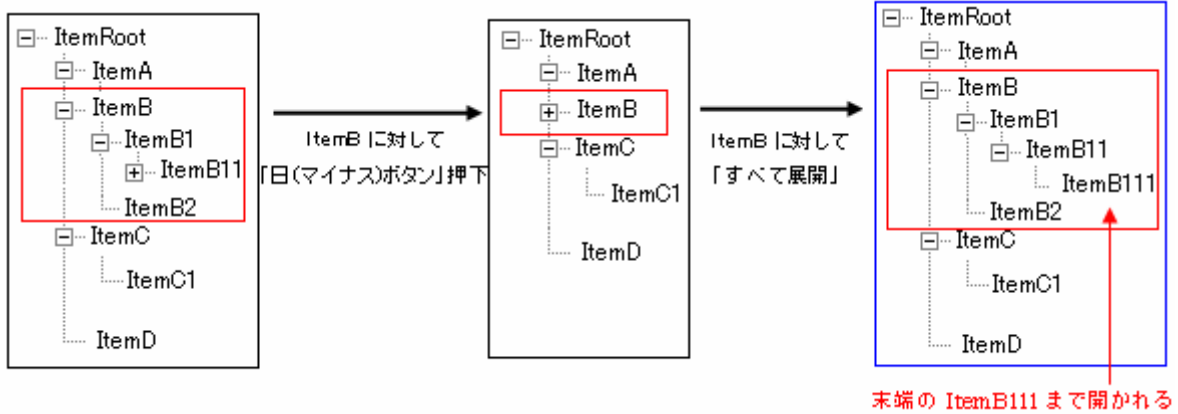
詳細は、「JobCenter 基本操作ガイド - 5.19.1 部品検索の項目を設定する」をご覧ください。

(13) ツリー表示機能強化

ユーザフレーム画面とマネージャーフレーム画面のトラッカー一覧タブ又はスケジュール表示タブのツリー表示にて、ツリーを一括して開閉できる「すべて展開」機能と「すべて折りたたみ」機能が追加されました。

- ・ 「すべて展開」機能

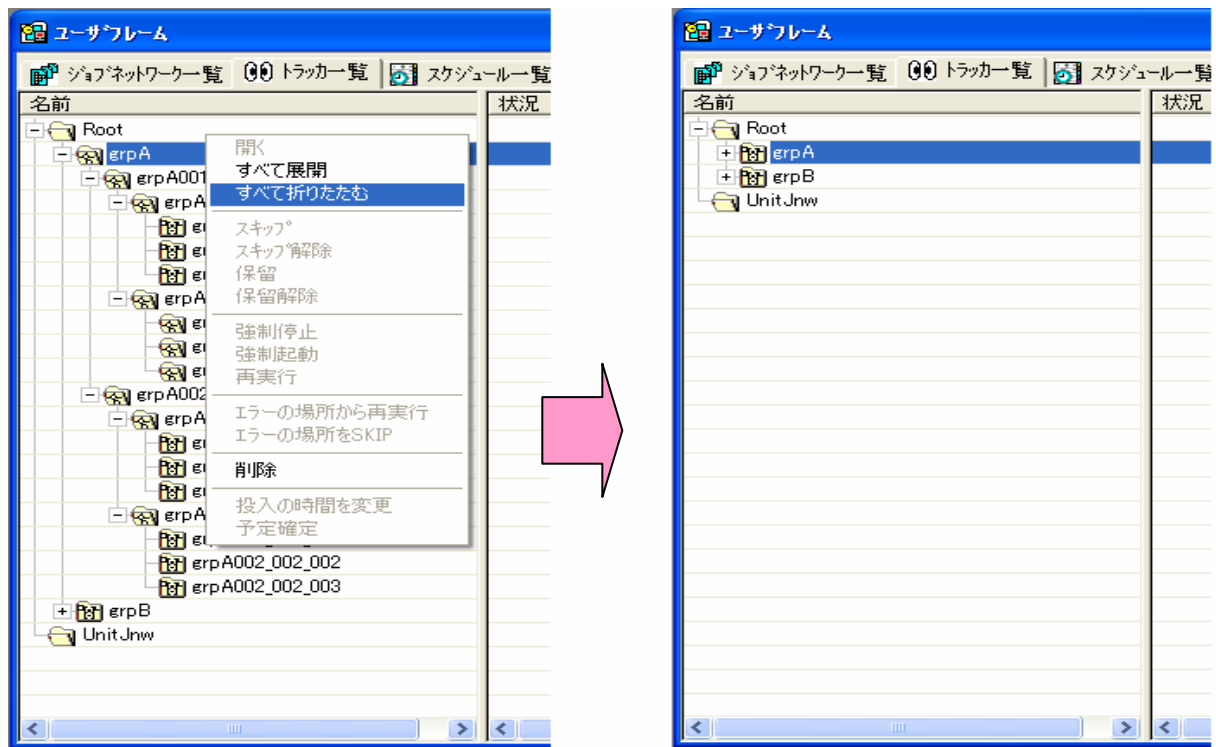
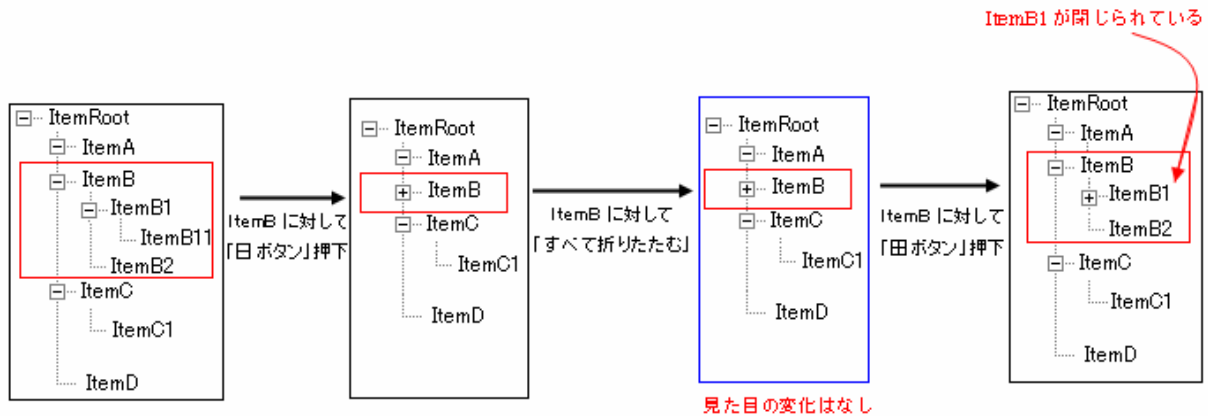
操作対象のグループが所有する全てのグループを開きます。



・「すべて折りたたみ」機能

操作対象のグループが所有する全てのグループを閉じます。

この操作により、捜査対象グループを次回「+ボタン」により開いたときには、配下のグループは全て閉じた状態で表示されます。



(14) 予定確定トラッカ作成機能

トラッカー一覧タブ画面又はトラックフレーム画面より「予定」状態のトラッカを「予定(確定)」状態にする機能が追加されました。

詳細は、「JobCenter 基本操作ガイド -5.14.5 複数のトラッカを選択して各種操作を同時に実行する」をご覧ください。

(15) 環境変数:PATH の設定機能

環境変数:PATH のシンタックスが異なっている環境（Windows 系と UNIX 系が混在）でも、ジョブ実行時の PATH が引き継がれる様に環境変数:PATH を UNIX 系と Windows 系とで、別々に定義できる機能が追加されました。

注意) 本機能は、ジョブ転送先のサーバの JobCenter が R12.5.5 以降でないとは有効となりません。

詳細は「JobCenter 環境構築ガイドー13.1.2 JobCenter SV 側の環境変数」、「JobCenter 環境構築ガイドー13.2.3 JobCenter SV 側の特定の環境変数」をご覧ください。

(16) jnwop chenv のオプション(-w)追加

jnwop コマンドの chenv オプションの後ろに-w オプションパラメータが追加されました。

jnwop コマンドの chenv オプション実行時に、-w オプションパラメータを指定することにより、ユーザ名、ホスト名の置換に失敗した場合（置換された箇所が 1 箇所もない場合）に、警告メッセージが出力されるようになります。

-w のオプションパラメータを指定していない場合には、従来どおりの動作となります。

詳細は、「JobCenter コマンドリファレンス - 3.4 jnwop ジョブネットワークのデータを移行」をご覧ください。

(17) jnwengine の-Tf,-Tt オプションの機能改善

jnwengine の-Tf,-Tt オプションの機能の一部が改善されました。

- ・ -Tf オプションの機能の改善内容

jnwengine に-Tf オプション指定時で、JobCenter を再起動した場合、ファイル待ち部品のタイムアウトを相対時刻に設定したファイル待ち部品が RUN 状態(待ち状態)であった場合、そのファイル待ち部品のタイムアウト時刻は、再起動時刻からの相対時間で再計算される様に機能が改善されました。(R12.5.4 以前では、JobCenter を再起動後に即座にタイムアウトする動作となっていました。)

- ・ -Tt オプションの機能の改善内容

jnwengine に-Tt オプション指定時で、JobCenter を再起動した場合、時刻待ち部品のタイムアウトを相対時刻に設定した時刻待ち部品が RUN 状態(待ち状態)であった場合、その時刻待ち部品のタイムアウト時刻は、再起動時刻からの相対時間で再計算される様に機能が改善されました。(R12.5.4 以前では、JobCenter を再起動後に即座にタイムアウトする動作となっていました。)

詳細は「JobCenter 環境構築ガイドー5.2 デーモン設定ファイルの使用可能パラメータ」をご覧ください。

(18) トラック操作後の自動更新制御機能

トラックの操作を行った後に更新動作をする・しないが選択できるようになりました。多数のトラックを操作する際に、操作する毎に更新しないようにし 1 回の操作時間を短縮することができるようになります。

詳細は、「JobCenter 基本操作ガイド - 5.13 トラック制御後のトラック一覧画面を更新しない」をご覧ください。

(19) Windows 版 JobCenter の起動時ライセンスチェック自動リトライ機能

I/F への IP アドレス割当てタイミングよりも、JobCenter サービス起動の方が早くなる場合があります。その際、IP アドレス不明により LicenseManager のライセンスチェックがエラーになり、JobCenter が自動起動できません。これを回避するために、ライセンスチェックを自動的にリトライすることができるようになりました。

詳細は、「JobCenter 環境構築ガイドー5.4 Windows 版 JobCenter の起動時ライセンスチェックについて」をご覧ください。

2.2 変更事項

2.2.1 JobCenterR12.6

(1) Windows MG/SV における「Unix サーバとの通信時、日本語コード変換を行わない」設定時の改行コードの扱いについて

サーバの環境設定ツールで、「マシンの制御」⇒「パラメータの変更」ダイアログの「Unix サーバとの通信時、日本語コード変換を行わない」チェックボックスが OFF の場合、従来は、改行コードは無変換(CL/RL のまま)で UNIX サーバに実行結果を送信していましたが、R12.6 からは、Unix サーバへ実行結果を送信するときは、「…変換を行わない」チェックボックスの ON/OFF にかかわらず、改行コードを CL/RL から LF のみに変換して実行結果を送信するように変更になりました。

(2) fixtool

Solaris 版と AXI 版の JobCenter パッケージで、fixtool が同梱されるようになりました。

(3) ジョブ実行時の環境変数 PATH の引き継ぎ (UNIX 版のみ)

UNIX 版の場合、ジョブ実行時の環境変数 PATH の引き継ぎは、デーモン設定ファイル(daemon.conf)に次の 1 行を追加することにより指定するように、変更になりました。

```
NQSDAEMON_PATH_EXPORT=1
```

詳細は、「JobCenter 環境構築ガイドー5.2 デーモン設定ファイルー5.2.2 UNIX の場合」をご覧ください。

(4) 起動時のユーザ情報同期処理 (Windows 版のみ)

R12.5.5(Windows 版) より、JobCenter に登録されているユーザ情報(以下、JobCenter ユーザ情報)を OS 上のユーザ情報(以下、OS ユーザ情報)と同期する処理に関して、以下の仕様変更が行われました。

- ① JobCenter(再)起動時には、JobCenter ユーザ情報のユーザ名と OS ユーザ情報のユーザ名が英大文字/小文字の違いがあっても、大文字/小文字の差は更新されません。
- ② OS ユーザ情報中のユーザ名の英大文字/小文字を変更したような場合に JobCenter ユーザ情報中のユーザ名をそれに合わせるには、[JobCenter サーバの環境設定]の[ユーザの管理]を使用して明示的に更新操作を行って下さい。この操作を行えば、JobCenter ユーザ名と OS ユーザ名が英大文字/小文字だけの違いであっても JobCenter ユーザ名は OS ユーザ名で更新されます。



パスワードの更新作業時の注意事項

JobCenter に登録されているユーザの OS パスワードの更新を行った場合、その変更を JobCenter にも反映させる必要があります。このとき、

- (i) [JobCenter サーバの環境設定]の[ユーザの管理]から更新を行う
- (ii) 該当ユーザで CL/Win からログインを行う

のどちらかの方法で行う必要がありますが、(i)の方法の場合は、ユーザ名の英大文字/小文字の違いだけがある場合でもユーザ名の更新が行われます。この更新を行いたくない場合には、(ii)の方法で行ってください。この場合には、パスワード情報だけが更新されます。

2.3 サポートが中止された機能

2.3.1 JobCenterR12.6

特にありません。

2.4 サポートされない機能

2.4.1 netatlas

netatlas(X Window 用 GUI)の使用は、R12.2 以降のバージョンでは、サポート対象外となっております。CL/Win(Windows GUI)を使用しての運用をお願いします。

<過去バージョンにおける netatlas のサポート状況>

- ・ (R11.x : netatlas 機能凍結)
- ・ R12.1 まで : netatlas の使用もサポート (CL/Win 推奨)
- ・ R12.2 以降 : netatlas の使用はサポート対象外 (CL/Win のみサポート)
- ・ R12.5 以降 : netatlas はパッケージに含まれておりません。

2.4.2 共有ジョブネットワーク

R12.5 より、共有ジョブネットワークが廃止されました。R12.4.x 以前の JobCenter から、R12.6 にバージョンアップする際は、共有 JNW 中の全てのジョブネットワークを、適当なユーザのジョブネットワークグループに移動してから、バージョンアップを実行してください。

2.4.3 パーミッション設定

R12.5 より従来のパーミッション設定のユーザレベル A~D は使用されなくなり、新たに、権限グループとしてアクセス権限を設定します。バージョンアップする場合、バージョンアップに先立ち、次のファイルのバックアップを取っておいてください。

- Unix/Linux 版 : /usr/spool/nqs/gui/userlevel.f
(クラスタ環境の場合、<共有 DB パス>/nqs/gui/userlevel.f)
- Windows 版 : <JobCenter インストール Dir.>%jnwexex%spool%USERLEVEL.F
(クラスタ環境の場合、<共有 DB パス>%jnwexex%spool%USERLEVEL.F)

バージョンアップ後、最初に JobCenter 管理者で CL/Win からログインしたときに、従来のユーザレベル A~C に設定されていたユーザは、次の対応で、デフォルトで用意された権限グループに引き継がれます。

ユーザレベル	デフォルトで用意された権限グループ
A	ジョブネットワーク開発者(JobCenter 管理者は除く)
B	ジョブネットワーク運用者
C	実行監視者
D	一般ユーザ (注 : A~C に所属しないユーザが全て含まれます)

ただし、各ユーザレベルの権限設定は引き継がれませんので、「JobCenter 環境構築ガイド -10. ユーザ権限(パーミッション設定)」により、JobCenter 管理者で、確認や適切な権限グループへの移動等を行ってください。

2.4.4 ジョブネットワークの実行規制

R12.5 よりアクセス権限の詳細な設定が行えるようになったため、R12.4.x 以前のジョブネットワークの実行規制の機能を廃止し、これに統合いたしました。

今までユーザごとに設定を行う必要のあった実行規制は、権限グループごとに規制を行うことが可能です。ジョブネットワークの実行を許可しない権限グループを新規に作成するか、デフォルトで用意されている「実行監視者」グループに、実行を規制したいユーザを所属させてください。

2.5 次回バージョンではサポートされない機能

2.5.1 デバイスリクエスト

デバイスリクエスト機能の廃止を予定しています。

2.5.2 CSV 編集ツール

CSV 編集ツールの廃止を予定しています。

2.6 次回バージョン以降で変更される機能

2.6.1 CSV 機能について

CSV ファイルを用いたジョブネットワーク構築・登録機能に関しては、次回バージョン以降で、性能強化を検討しております。これに伴い、次回バージョン以降の後継バージョンで、CSV ファイルのファイル構成・フォーマットが変更になる可能性がございます。

また、CSV ファイルの登録コマンド `mfreg` について CL/Win で編集可能な形式で登録するオプション `-n` がデフォルトとなり、編集不可能な形式での登録は廃止される予定です。

2.6.2 インストール時に作成されるデフォルトキューについて

`guijn` キュー、`guisl` キューは互換性のため作成されておりましたが、次回バージョン以降で作成されなくなります。

2.7 下位バージョンとの互換性について

■R12.4.x 以前と R12.5 の互換性について

R12.5 以降よりアクセス権限の詳細な設定が可能になり、また通常モードでの同じユーザによる CL/Win からのログインが可能になっているため、R12.4.x 以前のバージョンが混在した環境は構築できません。特に以下の点にご注意ください。

CL/Win でのログイン

R12.5 以降の MG(または SV)には、R12.5 以降の CL/Win からのみログインが可能になります。また、R12.5 以降の CL/Win からは、R12.5 以降の MG(または SV)にのみログインが可能になります。

R12.5 以降の MG(または SV)に対しては、必ず、パッケージ同梱の CL/Win をインストールしてご使用ください。

マシン連携

マシン一覧へのマシンの追加、およびマシングループの設定で追加できるのは、R12.5 以降のマシンのみです。R12.5.4 以前のバージョンの異なるマシンは追加できませんので、必ず R12.5 以降へのバージョンアップを行ってからマシン一覧への追加やマシングループの設定を行ってください。

■R12.5 と R12.5.4 以降の互換性について

R12.5.4 以降を使用する場合、CL/Win と JobCenter MG はそれぞれ R12.5.4 以降のバージョンを使用してください。R12.5.4 で JNW の削除性能/移動性能改善を大幅に改善しているため、古い R12.5 の CL/Win や MG が混在していると、JNW 削除時の編集ロック機能が正しく機能しません。(他ユーザが開いている JNW を削除できてしまう事象が発生します)

3. 動作環境

3.1 UNIX版

3.2 Windows版

3.3 使用するネットワークポート

3.4 クラスタ動作環境

3.1 UNIX 版

3.1.1 対応 OS、必要メモリ容量

JobCenter MG/SV は次の環境で動作します。

(1) JobCenter MG/SV の動作環境

項目	内容
OS	HP-UX 11.0, 11i ^{注1} , 11iv2 (PA-RISC, Itanium), 11iv3(Itanium) ^{注5} Solaris 2.6, 7, 8, 9, 10 AIX 4.2, 4.3, 5.1, 5.2, 5.3 ^{注2} Red Hat Enterprise Linux ES 2.1, AS 2.1, ES3.0, AS3.0, ES 4.0, AS4.0, 5.0 ^{注4} MiracleLinux 2.1, 3, 4
メモリ容量	30 MB 以上
固定ディスク容量	40 MB 以上 ^{注3}

注 1. JFS3.3 を使用している場合は OS のパッチが必要となります。

注 2. AIX5.3 において、HACMP クラスタ使用時は、クラスタサイトのみが利用可能です。

注 3. JobCenter CJC Option, JobCenter for R/3 Option, JobCenter for BW Option はライセンス製品ですので、インストールは不要です。したがって、これらの製品が HDD ディスク容量を消費することはありません。ただし、JobCenter CJC Option は、クラスタのセットアップ時にクラスタサイトの運用に必要な HDD 容量を共有ディスク上に確保する必要があります。クラスタ環境の詳細については、「JobCenter クラスタ機能利用の手引き」の関連項目を参照してください。

注 4. ES 4.0, AS4.0, 5.0 において、IA-32 エミュレーションを行うために、IA-32 Execupion Layer 等のセットアップの手順が必要になります。IA-32 エミュレーション環境の構築手順は、RedHat のリリースノートをご参照ください。

注 5. 11iv3(PA-RISC)はサポートしておりません。R12.6.1 より、11iv3(Itanium)をサポートいたします。ただし、11iv3(Itanium)上の JobCenter の動作環境として以下の制限事項があります。制限事項が守られてない環境での動作はサポートしておりませんのでご注意ください。

項目	制限内容
ユーザ名	15 バイト以内に設定してください。
グループ名	16 バイト以内に設定してください。
ホスト名	expanded_node_host_names による 65 バイト以上は非対応
対応言語	他のプラットフォームと同様に JobCenter が使用する言語として Unicode の言語環境は選択できません。 <English, EUC, SJIS, Chinese(GB18030)の言語環境に対応しています。>

3.1.2 パッケージインストールディレクトリ

JobCenter パッケージは、デフォルトでは次のディレクトリ配下にインストールされます。この他にジョブデータを保存するためのディスク領域が任意のパーティションに必要になります。

(1) HP-UX 版

インストールディレクトリ	インストール対象
/opt/netshep	JobCenter 本体
/opt/netatlas	ResourceCenter との共通 GUI 環境部

備考 HP-UX 版で/opt パーティションの空き容量が不足する場合には、他のパーティション上にパッケージ展開用のディレクトリを作成し、上記インストールディレクトリに対してシンボリックリンクを張ることで別パーティション上にインストールできます。

(2) Solaris 版

インストールディレクトリ	インストール対象
/opt/netshep	マニュアル、セットアップスクリプト
/usr/local/nqs	JobCenter 本体
/usr/lib/netatlas	GUI 環境部

備考 Solaris 版ではインストール時にディレクトリを指定できます。

(3) Linux 版

インストールディレクトリ	インストール対象
/usr/local/netshep	JobCenter 本体
/usr/local/netatlas	GUI 環境部

備考 Linux 版ではインストール時にディレクトリを指定できます。

(4) AIX 版

インストールディレクトリ	インストール対象
/opt/netshep	セットアップスクリプト
/usr/lpp/NECSSJBag	JobCenter 本体および GUI 環境部

備考 AIX 版では/usr/lpp 配下にパッケージがインストールされます。

3.1.3 インストール以外に必要なディスク容量

インストールディレクトリ以外に、定義したジョブのデータや、ジョブの実行結果を記録するためのディスク容量が必要になります。詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 14.3 Disk 使用容量の概算算出方法 (Unix 版)」を参照してください。

(1) スプールディレクトリ (/usr/spool/nqs)

実行中のジョブの定義データや実行結果 (ジョブの標準出力、標準エラー出力) が一時的に記録されます。

ジョブの実行結果情報はデフォルトで約 3 日間保存されます。

ジョブに依存しないログファイル、各種定義ファイルなどもスプールディレクトリに作成されます。

30MB 以上の容量が必要です。

(2) データディレクトリ (各ユーザのホームディレクトリの "NetShepEUI")

ジョブのスクリプトや、ジョブネットワークのフローの定義、スケジュールの定義などが保存されます。

ジョブの実行結果 (ステータス、標準出力、標準エラー出力) も保存されます。ジョブネットワークの実行中には、実行ログや必要なディスク容量は、実行するジョブの量、ジョブの出力する標準出力のサイズ、標準エラー出力のサイズ、それらの実行結果ファイルを保存する期間に依存します。


クラスタシステムで共有ディスクを使用した場合、データディレクトリは共有ディスク上の指定したディレクトリ配下にまとめて配置されます。

3.1.4 依存パッケージ

(1) ライセンスマネージャ (LicenseManager)

JobCenter をインストールするために、事前に次の LicenseManager をインストールする必要があります。

- NECWSLM : LicenseManager

 OS が HP-UX 11i v2 for Itanium および AIX の場合は LicenseManager のインストールは不要です。

JobCenter は、LicenseManager を使用してライセンスチェックを行います。

ライセンス解除の手順については、「JobCenter インストールガイド 2.3 コードワードを登録する」を参照してください。

(2) C++互換ライブラリ

C++の互換ライブラリを事前にインストールする必要があります。

次のパッケージがインストールされていなければ、インストールしてください。

- compat-libstdc++-7.3-2.96.XXX.i386.rpm

 RedHat Linux ES 3 もしくは RedHat Linux AS 3 の場合に必要です。

(3) BASECenter と連携


JobCenter を次のパッケージと併用する場合は、事前にそのパッケージをインストールしておく必要があります。

<1> JobCenter MG をインストールする場合

- NECSSBSmg : SystemScope/BASECenter(MG)

<2> JobCenter SV をインストールする場合

- NECSSBSag : SystemScope/BASECenter(AG)

 上記のパッケージがインストールされていない場合、セットアップ時に、SystemScope 関連のファイルの登録が失敗した旨のエラーメッセージが出力されることがあります。ただし、JobCenter の動作には影響はありません。

パッケージのインストール方法については、各プロダクトパッケージに付属のリリースメモを参照してください。

(4) IA-64 システム (Itanium ベースのシステム) で IA-32 アプリケーションを動作

32 ビットアプリケーションのランタイム環境をセットアップする必要があるため、IA-32 Execution Layer と 32 ビット互換パッケージをインストールしてください。

詳細については、「JobCenter インストールガイド 2.4 JobCenter MG をインストールする — 2.4.3 Linux 版」を参照してください。

3.2 Windows 版

3.2.1 対応 OS、必要メモリ容量

JobCenter MG/SV および JobCenter CL/Win は、それぞれ次の環境で動作します。

(1) JobCenter MG/SV の動作環境

項目	内容
OS	Microsoft Windows 2000 Server 日本語版
	Microsoft Windows 2000 Professional 日本語版
	Microsoft Windows XP Professional 日本語版
	Microsoft Windows Server 2003 日本語版
	Microsoft Windows Server 2003 x64 Edition 日本語版
	Microsoft Windows Server 2003 for Itanium-based Systems 日本語版
	Microsoft Windows Server 2003 R2 日本語版
	Microsoft Windows Server 2003 R2 x64 Edition 日本語版
	Microsoft Windows Storage Server 2003 ^{注1}
	Microsoft Windows Storage Server 2003 R2 ^{注1}
メモリ容量	25MB 以上
固定ディスク容量	25MB 以上 ^{注2}

注 1 JobCenter SV のみ対応になります。

IA-32 をサポートします。X64 版はサポートしていません。

注 2 JobCenter CJC Option はライセンス製品ですので、インストールは不要です。したがって、JobCenter CJC Option が HDD 容量を消費することはありません。

ただし、クラスタのセットアップ時にクラスタサイトの運用に必要な HDD 容量を共有ディスク上に確保する必要があります。クラスタ環境の詳細については、「JobCenter クラスタ機能利用の手引き」の関連項目を参照してください。

(2) JobCenter CL/Win の動作環境

項目	内容
OS	Microsoft Windows 2000 Server 日本語版
	Microsoft Windows 2000 Professional 日本語版
	Microsoft Windows XP Professional 日本語版
	Microsoft Windows Server 2003 日本語版
	Microsoft Windows Server 2003 R2 日本語版
	Microsoft Windows Vista Ultimate 日本語版
	Microsoft Windows Vista Business 日本語版
	Microsoft Windows Vista Enterprise 日本語版
メモリ容量	15MB 以上
固定ディスク容量	15MB 以上

注 Vista については JIS90 互換でのみ対応。

3.2.2 パッケージインストールディレクトリ

JobCenter パッケージは、デフォルトでは次のディレクトリ配下にインストールされます。この他にジョブデータを保存するためのディスク領域が任意のパーティションに必要になります。

インストールディレクトリ	インストール対象
¥C:¥JobCenter¥SV	JobCenter MG/SV 本体
¥C:¥JobCenter¥CL	Windows CL/Win 本体

備考 インストール時にディレクトリを指定できます。

3.2.3 インストール以外に必要なディスク容量

インストールディレクトリ以外に、定義したジョブのデータや、ジョブの実行結果を記録するためのディスク容量が必要になります。%InstallDirectory%は JobCenter MG/SV のインストールディレクトリを表します。詳細については、「JobCenter 環境構築ガイド 14.6 Disk 使用容量の概算算出方法 (Windows 版)」を参照してください。

(1) スプールディレクトリ 注

(%InstallDirectory%¥SPOOL, %InstallDirectory%¥NMAP,
%InstallDirectory%¥log, %InstallDirectory%¥jnwexe¥spool)

実行中のジョブの定義データや実行結果（ジョブの標準出力、標準エラー出力）が一時的に記録されます。

ジョブの実行結果情報はデフォルトで約 3 日間保存されます。

ジョブに依存しないログファイル、各種定義ファイルなどもスプールディレクトリに作成されます。

30MB以上の容量が必要です（「(2) データディレクトリ (%InstallDirectory%¥jnwexe¥spool¥ユーザ名)」の容量は含まれていません）。

注 UNIX 版 JobCenter の/usr/spool/nqs 配下の情報に相当します。JobCenter の管理情報や制御情報、ジョブの実行状況や実行結果の格納場所を総称してスプールディレクトリと呼びます。

(2) データディレクトリ (%InstallDirectory%¥jnwexe¥spool¥ユーザ名)

ジョブのスクリプトや、ジョブネットワークのフローの定義、スケジュールの定義などが保存されます。

ジョブの実行結果（ステータス、標準出力、標準エラー出力）も保存されます。ジョブネットワークの実行中には、実行ログや必要なディスク容量は、実行するジョブの量、ジョブの出力する標準出力のサイズ、標準エラー出力のサイズ、それらの実行結果ファイルを保存する期間に依存します。

クラスタシステムで共有ディスクを使用した場合、データディレクトリは共有ディスク上の指定したディレクトリ配下にまとめて配置されます。

3.2.4 依存パッケージ

(1) ライセンスマネージャ (LicenseManager(MainPart))

JobCenter をインストールするために、事前に次の LicenseManager をインストールする必要があります。

- LicenseManager(MainPart)



OS が 64bit 版 Windows Server 2003 の場合は、LicenseManager のインストールは不要です。

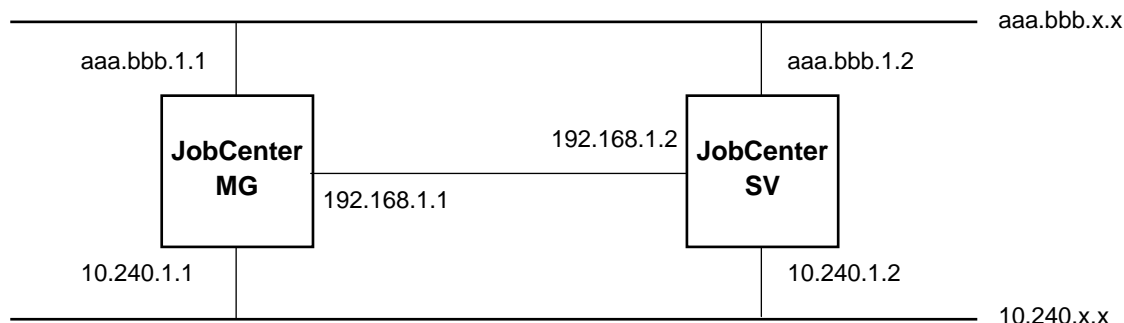
JobCenter は、LicenseManager を使用してライセンスチェックを行います。

ライセンス解除の手順については、「JobCenter インストールガイド 2.3 コードワードを登録する」を参照してください。

3.3 使用するネットワークポート

JobCenter のサーバ間のネットワークのネットワークのには、伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル (TCP/IP) を使用します。TCP/IP とホスト名の解決が正常に動作するように設定を行ってください。

JobCenter のサーバ間通信およびサーバ内通信には、TCP/IP ポート番号 (コンピュータとの間でデータを受け渡しするデバイスを接続できるコンピュータ上の接続ポイント) を指定します。通信を行うサーバ間で同じ番号を指定します。



備考 図中の aaa.bbb.1.1~aaa.bbb.x.x はグローバルアドレスを示します。
10.240.1.1~10.240.x.x および 192.168.1.1, 192.168.1.2 は、プライベートアドレスを示します。

図 3-1 IP アドレスの指定例

次に、FireWall の設定などで必要になる、JobCenter MG/SV および JobCenter CL/Win で使用する TCP のポート番号について説明します。

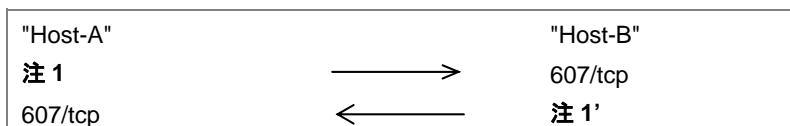
現在の JobCenter (R9.1 以降) では、ホスト間の通信に次の 3 種類のプロトコルを使用しています。

(1) NQS

MG⇄SV 間、SV⇄SV 間で、ジョブの制御 (ジョブの転送、結果取得) を行う際、使用するプロトコルです。

NQS では、「ジョブの転送」と「結果ファイルの転送」で双方向の通信が行われるため、使用するポートは server/client で対症的に設定する必要があります。

• NQS プロトコルが使用するポート



注 1, 1' これらのポートは、通常「セキュアポート」と呼ばれています。

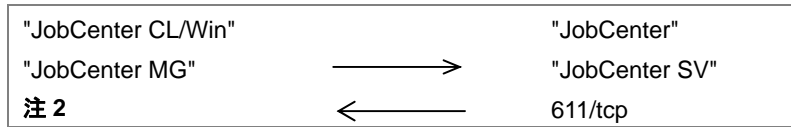
tcp ポートのうち、512 番から 1024 番で未使用のものが選択され、使用されません。

(2) **jccombase (JobCenter の独自プロトコル)**

CL/Win から JobCenter を操作する際に使用するプロトコルです。

また、MG⇄SV 間でキューの制御、マシン一覧の管理など、JobCenter の管理者操作を行う場合にも使用されます。ジョブの制御には直接関係しません。

● **jccombase プロトコルが使用するポート**

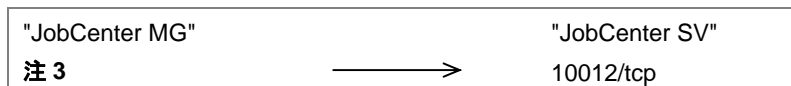


注 2 このポートは 1024 番以上で未使用のものが選択されます。

(3) **jcevent (JobCenter の独自プロトコル)**

JobCenter イベント連携機能が使用するプロトコルです。

● **jcevent プロトコルが使用するポート**




注 3 このポートは 1024 番以上で未使用のものが選択されます。

備考 ポート番号の表記

n —————> m/tcp : ポート番号 n からポート番号 m について tcp で接続を行います。

tcp 通信では回線は双方向に用いられます。

 上記 3 つのプロトコルはホスト間の通信で使用されます。上記以外に製品内部では、jnwengine というプロトコルにて 609 のポート番号がプロセス間通信に使用されます。

3.4 クラスタ動作環境

以下のクラスタ環境に対応しております。

- MC/ServiceGuard
- Microsoft Cluster Service
- CLUSTERPRO(海外製品名 : ExpressCluster)
- Sun Cluster
- VERITAS Cluster
- HACMP



CLUSTERPRO、Microsoft Cluster Service で JobCenter を動作させる場合、JobCenter 管理者ユーザ以外のユーザでもジョブ運用を行う場合にはドメイン環境が必要となる場合があります。詳細は、「JobCenter インストールガイド -2.4.5 Windows 版」をご覧ください。



HACMP で AIX5.3 において使用する場合は、クラスタサイトのみが利用可能です。

4. UNIX 版 と Windows 版の機能差について

Windows 版 JobCenter と UNIX 版 JobCenter は、ほぼ同等の機能を提供します。しかし、UNIX と Windows は OS の違いにより、若干の機能差があります。ここでは、その機能差について説明します。ここに記述されていない機能については「JobCenter 基本操作ガイド」をご覧ください。

4.1 ジョブネットワーク

4.2 リクエスト

4.3 操作／環境設定

4.1 ジョブネットワーク

- Windows 版では単位ジョブのサスペンド機能はサポートしていません。

4.2 リクエスト

- バッチリクエストは UNIX 版では UNIX シェルスクリプトですが、Windows 版ではバッチファイル形式(.BAT)で記述します。
- Windows 版ではバッチリクエストの埋め込みオプションはサポートしていません。
- Windows 版ではバッチリクエストの属性として指定された資源制限値は、Windows 上では無視されます。
- バッチリクエストの属性として指定された nice 値は、Windows 上では次のとおり解釈されます。

nice 値指定	Windows 上でのプロセスプライオリティクラス
-20	REALTIME
-19~-1	HIGH
0~18	NORMAL
19	IDLE

- 結果ファイルのパス名において Windows 版ではドライブ名(A:など)が使用できます。ただし、1文字のホスト名はドライブ名として解釈されます。
- Windows 版ではデバイスリクエストはサポートしていません。
- Windows 版ではネットワークリクエストはサポートしていません。
- Windows 版ではリクエスト実行時に生成される環境変数はつぎの通りです。

変数名	値(例)	備考
ComSpec	C:¥WINNT¥System32¥cmd.exe	Windows のインストールディレクトリに対して固定
Path	C:¥WINNT¥System32;C:¥WINNT	Windows のインストールディレクトリに対して固定
Os2LibPath	C:¥WINNT¥System32¥os2¥dll	サービス起動時の環境変数が保存される
SystemRoot	C:¥WINNT	サービス起動時の環境変数が保存される
SystemDrive	C:	サービス起動時の環境変数が保存される
Windir	C:¥WINNT	サービス起動時の環境変数が保存される
Temp	%SystemDrive%¥TEMP	レジストリ "HKEY_USERS¥.DEFAULT¥Environment¥TEMP"の値
Tmp	%SystemDrive%¥TMP	レジストリ "HKEY_USERS¥.DEFAULT¥Environment¥TMP"の値
ENVIRONMENT	BATCH	固定値
USERNAME	Jobuser	マッピングされたユーザ名
QSUB_HOST	host01	ジョブを作成したホスト名
QSUB_REQID	10.host01	ジョブのリクエスト ID
QSUB_REQNAME	STDIN	リクエスト名
QSUB_WORKDIR	/tmp	qsub コマンド実行ディレクトリ

R		
QSUB_SHELL	/usr/bin/csh	qsub コマンド実行時の SHELL 環境変数
QSUB_PATH	/usr/bin:/usr/sbin:/sbin	qsub コマンド実行時の PATH 環境変数
QSUB_LOGNAME	user1	qsub コマンド実行時の LOGNAME 環境変数
QSUB_USER	user1	qsub コマンド実行時の USER 環境変数
QSUB_MAIL	/var/mail/user1	qsub コマンド実行時の MAIL 環境変数
QSUB_TZ	JST-9	qsub コマンド実行時の TZ 環境変数

- Windows 版の実行シェルは CMD.EXE です。CMD.EXE 以外を実行シェルとして指定した場合の動作は保証できません。
- Windows 版ではジョブステップリスタートはサポートしていません。
- Windows 版の API ライブラリはサポートしていません。

4.3 操作／環境設定

- Windows 版 JobCenter は CL/Win からの運用のみのサポートであり、qsub 等の NQS 系の JobCenter ユーザコマンドは利用できません。また、同様に、Windows 版 JobCenter では、qstat 系の NQS 情報の表示コマンドでリクエスト情報等を表示することはできません。なお、qmgr と nmapmgr の JobCenter 管理者向けコマンドについては利用可能です。
- Windows 版ではバッチリクエストの一時停止／再開機能はサポートしていません。
- Windows 版ではバッチリクエストの再登録機能はサポートしていません。
- Windows 版ではバッチリクエストの移動機能はサポートしていません。
- Windows 版ではバッチリクエストに対するメッセージ送信機能はサポートしていません。
- Windows 版ではリクエスト実行シェルを変更することはできません。
- Windows 版ではシェル選択方式は FIXED 指定のみサポートしています。FREE、LOGIN を指定することはできません。
- Windows 版ではマッピングモードは TYPE3 固定です。複数サーバ間でジョブの転送を行う場合、CL/Win から他のマシンのキューやリクエストの参照を行う場合は、各サーバにおいてユーザのマッピングを行う必要があります。
- Windows 版では負荷分散機能はデマンドデリバリー機能のみサポートしています。ラウンドロビン方式負荷分散(rrpipeclient)と、負荷情報収集方式負荷分散(lbpipeclient)はサポートしていません。
- Windows 版ではタイムゾーンとして、Windows サーバマシンのシステムの環境変数 TZ を参照します
- Windows 版では nqsstart, nqsstop コマンドはサポートしていません。サーバ環境設定のサービスの制御を利用して下さい。

5. 注意事項・制限事項

5.1 UNIX版での注意事項・制限事項

5.2 Windows版での注意事項・制限事項

5.1 UNIX 版での注意事項・制限事項

5.1.1 SNMP-Trap 対応について

SNMP-Trap について、JobCenter IPF 版ではサポートしていません。

5.1.2 使用不可ユーザ名について

- JobCenter において” CommonJNW” というユーザ名は使用できません。
- ホスト名と同じユーザ名は使用できません。

5.1.3 クラスタ環境について

JobCenter の NQS 設定でグループに対するキューアクセス制限等を設定する場合は、クラスタサイトを構成する全てのノードで、グループ名と gid も統一する必要があります。

5.1.4 インストールディレクトリのパーミッションと root ユーザの umask について

インストールディレクトリのパーミッションについては、755 のアクセス権が必要になります。root ユーザの umask の値をご確認のうえ、755 のアクセス権がマスクされる事がないようにお願いします。

5.2 Windows 版での注意事項・制限事項

5.2.1 注意事項

- ホスト名について

JobCenter はマルチプラットフォーム間の連携を行う製品のため、JobCenter のインストール対象ホストのホスト名として、先頭に数字をもつホスト名は使用できません。また、結果ファイルのパス名において 1 文字のホスト名はドライブ名として解釈されます。1 文字のホスト名は使用しないで下さい。

- ユーザ名について

JobCenter で使用できるユーザ名の最大長は 15 バイトです。なお、ユーザ名に漢字は使用できません。

- 初期化ファイル(.INI ファイル)、レジストリについて

JobCenter インストールディレクトリ内、Windows ディレクトリ内の各初期化ファイル、およびレジストリ情報は許可なく変更しないで下さい。許可なく変更した場合の動作は保証できません。

- Windows における環境構築について

Windows の問題により、ホスト名の名前解決が正しくできず、JobCenter 間の連携が正常に動作しない場合があります。そのような場合は、%INSTALL%\etc\resolv.def というファイルを作成し、このファイルに関連するホストの IP アドレスとホスト名を記述して下さい。

(詳細は「JobCenter 環境構築ガイド」を参照して下さい)

- JobCenter 管理者アカウントのパスワード変更について

JobCenter MG/SV インストール後に、JobCenter 管理者アカウントのパスワードを変更する場合には、次の手順で変更を行って下さい。

1. [サーバの環境設定]を起動します。
2. サービスの[停止]ボタンを押し、JobCenter(NetShepherd)サービスを停止します。
3. [ユーザマネージャ]で JobCenter 管理者アカウントのパスワードを変更します。
4. [サーバの環境設定]の管理者パスワード、パスワード再入力を入力し、[設定/変更]ボタンを押しします。
5. [サーバの環境設定]のサービスの[開始]ボタンを押し、NetShepherd サービスを開始します。

- JobCenter 管理者アカウントの変更について

JobCenter MG/SV のインストール後に、JobCenter 管理者アカウントを変更する場合には、次の手順で変更を行って下さい。

1. [サーバの環境設定]を起動します。
2. サービスの[停止]ボタンを押し、JobCenter(NetShepherd)サービスを停止します。
3. JobCenter/SV のインストールパス配下のファイルのアクセス権限に、変更する新しい管理者に対してフルコントロールの権限を追加します。
4. [ユーザマネージャ]で JobCenter 管理者アカウント及びパスワードを変更します。
5. [サーバの環境設定]の管理者パスワード、パスワード再入力を入力し、[設定/変更]ボタンを押しします。
6. [サーバの環境設定]のサービスの[開始]ボタンを押し、NetShepherd サービスを開始します。



NTFS を使用している場合、新しい管理者に既存データファイルへの正しいアクセス権がなければ、JobCenter は使用できなくなります。また、該当マシンにて UMS 機能を利用している場合には、上記の方法では管理者が正しく認識出来ない場合があります。そのような場合には、JobCenter を一旦アンインストールした後、再インストールを行って再度管理者を設定して下さい。

- アーカイブファイル関連の不要ファイル削除について

Windows の場合、保存期間が過ぎたアーカイブファイルが削除された後に、<JobCenter インストールディレクトリ>¥SV¥jnwex¥spool¥ユーザ名¥trkarcYYYYMMDD-YYYYMMDD.lck.lck というファイルができることがある』という問題を修正しましたが、既に trkarcYYYYMMDD-YYYYMMDD.lck.lck というファイルが存在している場合は手動で削除してください。

- 使用不可ユーザ名について

- JobCenter において、"CommonJNW"というユーザ名は使用できません。
- コンピュータ名と同じユーザ名は使用できません。

- Uid 指定について

Windows OS 標準の機能では、ユーザアカウント作成時に任意の uid を指定することができません。また、uid の変更もできないため、インストール前に調整する必要があります。

- クラスタ環境の場合について

- ドメイン環境の場合、ドメインユーザの uid はドメイン参加マシン間で一意に決まりますので、クラスタ環境を構築される場合は、ドメイン環境で構築し、ドメインユーザによる運用をお奨めします。(この場合、JobCenter 管理者もドメインユーザである必要があります。)
- クラスタサイトを構成する全てのノードで、同じユーザを JobCenter 管理者としてセットアップする必要があり、インストールガイド「2.4.5 Windows 版」の「一般的な注意事項」に記載の通り、当該ノードにおいてローカル管理者権限が必要となります。
- クラスタサイトとローカルサイトを同時に動作させる場合、ローカルサイトの JobCenter 管理者がクラスタサイトの JobCenter 管理者となりますので、事前に十分検討のうえ、インストールしてください。
- ドメイン環境の場合、クラスタサイトを構成するノードの組み合わせに制限があります。PDC とメンバサーバ、BDC とメンバサーバの組み合わせはできません。
- JobCenter をクラスタ環境にインストールする場合は、クラスタサイトを構成する全てのノードで、ユーザ名と uid を統一する必要があります。
- Windows 版のクラスタ環境において、サーバの環境設定画面の「ログの制御」にて設定した情報は、クラスタがフェールオーバーした際に自動的に引き継がれません。そのため、変更を行う際は、運用系、待機系のそれぞれについて「ログの制御」の設定／解除を行う必要があります。
- Windows 版のクラスタ環境において、運用系、待機系のそれぞれノードの JobCenter に対して、パスワードの設定を行う必要があります。そのため、ジョブの運用を開始する前に MG,SV を問わずクラスタリングを構成しているノードに対し、あらかじめ CL/Win にてログインを一度実施していただく必要があります。

5.2.2 制限事項

- JobCenter SV のアンインストールについて

JobCenter SV のアンインストールでは、スタートメニューの [JobCenter]グループを削除出来ない場合があります。アンインストール後、新たなバージョンをインストールしない場合には、[JobCenter] グループを削除して下さい。

- COM1 等のシステム予約ファイル名はジョブネット名として使用できません。
- 単位ジョブをバッチキュー上で実行開始するタイミングで OS シャットダウンが実行されていると、ジョブ実行ユーザの Desktop が OS により削除されるため実行エラーとなり、バッチキューが停止する場合があります。そのため、ジョブ投入タイミングをはずして OS シャットダウンを実行するようにして下さい。